



民に連帶し、ピノチェット大統領  
来日阻止、チリ労働者統 中央組  
織（CUT）代表団歓迎東京集会  
すえ、73年9月11日、ピノチェッ

—東京・大阪—

民連合政権を築き上げ、中南米における「輝ける星」として鼓舞しつづけた。その政策は銅、硝石を始めたとする基幹産業の国有化、失業の一掃、基本的人権の確立、全ゆる特権の廃止などで、子ども一人に一日半リットルのミルクを台言葉に進められた。

自らの権益を維持せんとする米

ち早く独裁政権を承認し「経済協力」の名のもと各種援助をはじめた。資本進出を計ってきた。更に昨年八月、園田外相（当時）はチリを訪問しピノチェット来日を要請。昨年の国連「非難決議」に態度を一変し棄権にまわつた。

ピノチェットは去る二月、フィリピンやフィジーを訪問する予定

大阪府学生連絡会議

大衆運動という形で進められる中  
にあつて、ハガキ行動の意義は大  
きい。

つた。  
当局は、準備段階における揭示

しつけようとし、あるいは一定の学生の要求をのむとみせかけ援助金回避を図る等の攻撃を通じ、学生會組織の分断と自治活動破壊を

攻撃を学生会一丸となつてはねのけ、後夜祭時間延長を克ち取り、当局の介入規制をおさえ、全学にささえられた内容創意ある学園祭

民学同機関誌  
**新時代**  
第16号 / 領価600円

握る爲に於て「アメリカが  
強くなればソビエトが譲歩する」  
として、三天革命勢力に公然と  
敵対し、カーターよりも強硬に  
冒險主義的冷戦政策を押し進め  
ようとしているのである。しか  
も、それを同盟國の過重な分担  
によつてなしきうとしてゐる  
のである。こうしたレーガンの  
政策は日本の軍国主義化を一層  
激しいものとするであらう。し  
かしレーガンの政策は実現困難  
なものである。例えば、その経  
求されている時はない。西独人

てきている姿に、レーガン政権  
の權の明日の姿が暗示されてい  
だらう。しかし、だからといつ  
てレーガン政權の本質ともいえ  
る全般的危機における帝国主義  
の狂暴性が、カーター以上に荒  
れ狂うであろうことを忘れては  
ならない。社会主義ソビエトは  
早くもレーガン次期政權に対す  
る平和攻勢を展開している。今  
ほど、帝国主義の最後のがきが  
を封じ込める平和共存攻勢が要

欧州デタントを守れ

強硬路線「新核戦略」を頂点とする「力の政策」「新冷戦政

策」を押し進めんとし、同盟国にもこれを強要していったのである。しかし、こうした冒険主義的策動は、三天革命勢力の闘いの前に逆に帝国主義ブロックを弱体化させ、自らの首を締め

るものとなってきた。そうした中で、国内では史上空前の赤字を記録する程の経済危機を

まねいていったのである。又、これらをもて明らかなように、

カーターは強硬な右翼なのであ

る。アメリカ国民は、「どちら

敗北したカーターが、三天革命勢力によって封じ込められ、自

首をしめていく帝国主義の姿であるとするならば、カーター

の新冷戦政策にのって登場したレーガンは、追いつめられた帝国主義の狂暴性を体現している

だろう。反ソ強硬・極右のレーガンは、PLOはテロ集団」「ベトナム戦争は聖戦だった」「人権外交より同盟国との関係重視」――軍事独裁政権の露骨な肯

定、更には、キューバの封鎖、イラン、アフガンへの軍事介入、SALT II のリンケージ、「ア

この五年間、欧州ではヘルシンキにおける合意を基本路線としながら、デタントと平和共存が動かしがたいものとして進展してきている。とりわけ経済面では、西独・仏中心に、東西間経済協力抜きには西独経済が成り立たぬ程成長してきている。その様な中で、資本自身がデタントを要求するようにまでなっている。

しかしながら、米帝を中心とした帝国主義の狂暴なグループは、デタントの利益に無関心なばかりではなく、デタントと軍縮に向けた西欧諸国の措置や社会主義との協力措置すべてに敵対し、これを破壊しようとする策動を展開している。彼らは、このマドリッド会議に「アフガニスタン」「人権擁護」「アフガンニスタン」等をもちこみ、それによつてマドリッド会議に危険な対立と論争をもちこみ、達成されたデタントさえも破壊せんと目論んでいる。今こそ、世界の三天反帝平和勢力の統一した力で、マドリッド会議の成功と、ヨーロッパのデタントを守らなければならぬ。

桜美林大学では、現在、来年度「授業に不満をとな  
えぬ」学生が80%を越えており、

喜美氏講演・展示（帝國主義の冷軍拡充と日本の軍國主義化の露露・軍縮の展望）、婦人問題研究会――「80女性は今飛躍できるか女子学生の就職と教育」中学

大阪学大（大阪教育大）では  
一〇月二七日から一月上旬に於  
けて、「子供、未来、そして私た  
ち」のテーマの下、大学祭が行な  
われた。

まっている。

桜美林大学は、今日の大学再編がほとんどの大学で急激に行なわれている中で、目立たぬ路ある意味では、いまだ観戦線を描き出していないものの、設途中と思われるが、その

改革が不可避と思われる。

又、桜美林大学は、創立から十数年しか経ておらな

新指導要領批判」現地教師との  
談話会、展示の成功を中心内容  
濃い企画が例年以上にもたれる  
で、企画がテーマにもつぎ反  
全企画がテーマにもつぎ反  
的の和洋大のキャンパスをよみが  
らせるようなものとなつていつ  
。そして後夜祭において歌われ  
第三回里見祭テーマソング」  
目へのメッセージ」をバックに、  
主管理、自主運営の文化の祭典  
第一歩として立ち取られた大祭  
、全友友の団結を強固なものに  
、幕を閉じたのである。

中央企画として「戦争と平和を  
考えるつどい」がもたれ、映画「  
はだしのゲン」上映と、作者・中  
沢啓氏の講演が行なわれ、七〇  
名が参加した。中央企画にむけて  
大学祭の中央実行委の執行部から  
方針が提起されない中で、部落解  
放研、婦人研、教平研などが中心  
になつて「人権と教育討論集会」  
が行なわれた。ここには、在朝研  
「障」害者解放研、民教研などが  
参加、池分自治会の後援でもたれ  
た。集会は、パネルディスカッシ  
ョン形式で進められ、各サークル  
から、人権と教育についての、つ  
つこんだ問題提起がなされた。集

2年制の大学  
値上げは、その  
財政的基盤を整  
えようとするも  
のである。

又、この様な  
大学にも、今日  
の中教審要申、  
社会の大学に対  
する要求は、避  
けて通れぬもの  
である。

謂所 中教審  
5種8類、〇〇  
周年記念事業計  
画というものは、

大学再編を斬る  
その⑦

**桜美林大学**

たに、確信  
ている。

75年の大  
費値上げと  
生の定期的  
イド制の導  
すでに体制  
で定着して  
更に、昨  
値上げされ  
年について  
中央執行部  
議会の学費  
する公開質  
には、回答  
を過ぎても

# 大学再編を斬る

その⑦

## 桜美林大学

75年の大  
費値上げと  
生の定期的  
イド制の導  
すでに体制  
て定着して  
更に、昨  
値上げされ  
年について  
中央執行部  
議会の学費  
する公開質  
には、回答  
を過ぎても

NUKEバンド、ホンヨンウらを招いたコンサートがもたらされた。

その他、中央実行委主催の「たとえば障害児教育」の上映には七人が参加、また、現代社会研究の「清水幾太郎を斬る」と題した日本時義氏講演も五〇名の参加で成功した。

むけ、学内の反差別・人権擁護の世論を高めた。

学大の大学祭は、民青のお祭り的な発想による中央企画だけのものから、今年は、自治会の下から、今年も、自治会の下でクラスが多く参加した。クラスでの劇や紙芝居などが行なわれ、大学祭はクラス自治会運動の高揚とともに、学生の中に定着しはじめてい

ち出されてはいないものの、「当局の立場が問われている」  
国際的視野をもつ「社会」の要  
請（企業からの）ということ、  
とりわけ語学力の充実に力を向  
けはじめているのが最近の傾向  
である。

これに比較して学生の方は、  
前期中央執行部のアンケート調  
査によれば、「見えない、聞こ  
えない」

当局の立場が問われている  
桜美林の大学再編が具体  
形をとって表われる時期は  
として、学生管理のママ  
ー、財源の確保は着々と進  
おり、学生と、大学理事会  
大学運営を巡る矛盾が激化  
然化するのも、そう遠くな  
来に予想される。

第21回大学祭は、11月4日、歴史よゝ入る希望をノ軍国主義とくえ」のテーマの下に、キャンパスで盛大に行なわれた「体育文化週間」について低迷を余儀なくされた「大学祭成功ノ

「体文週間方式撤回」を相言葉に  
実行委の下に結集する。学生の団結  
の力によって、この数年やっと盛  
況をとりもとしてきている。

こうして迎えた今年の大学祭で  
は、急速に進む日本の軍国主義化  
の動きを今こそともに考えようと  
統一テーマのもとに、中央実行委  
がよびかけ、人間科学部自治会を

はじめとして、各自治会、平和団体に加え、映画研究会、混声合唱フロイントコールといったサークルも参加して、中央企画実行委がつくられ、最近の軍拡、右傾化に警鐘をうちならす多様な企画がとり組まれた。

二日の「軍国主義と我々のゆく」と題する討論シンポでは、堀

一郎氏（平和を願う民衆の会）亭橋昭博氏（広島原爆資料館々長）を招き百名の参加で行なわれた。シンポで明らかにされた平和に関する学生の意識調査によれば、徴兵制には殆んどが反対、今の軍事費増額・改憲の動きを不安視し、七割が日本は再び戦争をするだろうと考えているという調査結果が、

○NUKEバンド、ホンヨンウ  
ンらを招いたコンサートがもたれ  
た。

その他、中央実行委主催の「た  
とえば障害児教育」の上映には七  
〇人が参加、また、現代社会研究  
会の「清水幾太郎を斬る」と題し  
た山本晴義氏の講演も五〇名の参  
加で成功した。

むけ、学内の反差別・人権擁護の  
世論を高めた。

学大の大学祭は、民青のお祭り的  
な発想による中央企画だけのもの  
から、今年は、自治会の下クラ  
スが多く参加した。クラスでの劇  
や紙芝居などが行なわれ、大学祭  
はクラス自治会運動の高揚とも  
に、学生の中に定着しはじめてい  
る。

ち出されてはいないものの、「当局の立場が問われている」  
国際的視野をもつ「社会」の要  
請（企業からの）ということ、  
とりわけ語学力の充実に力を向  
けはじめているのが最近の傾向  
である。

これに比較して学生の方は、  
前期中央執行部のアンケート調  
査によれば、「見えない、聞こ  
えない」

当局の立場が問われている  
桜美林の大学再編が具体  
形をとって表われる時期は  
として、学生管理のママ  
ー、財源の確保は着々と進  
おり、学生と、大学理事会  
大学運営を巡る矛盾が激化  
然化するのも、そう遠くな  
来に予想される。